

岐阜県恵那市大井町地区の景観計画策定に向けた地域資源に関する考察 —中山道大井宿とその周辺地域を対象として—

日本大学 学 生 ○井出 純一
 日本大学 正会員 横内 憲久
 日本大学 正会員 岡田 智秀
 日本大学 正会員 押田 佳子
 日本大学 学 生 大塚 宏樹

1. 背景および目的

岐阜県恵那市では 2008(平成 20)年より、景観法に基づく景観計画策定作業が進められたことと連動して、地区別の景観まちづくり活動が展開されている。市内全 13 地区あるうちのひとつである大井町地区でも、このほど景観まちづくりが始動し、筆者らもその活動に参画するに至った。当地区は、JR 恵那駅を内包していることからアクセスが良好で、さらに中山道の 46 番目の宿場町「大井宿」を有している。しかし、当地区の良好な景観形成に向けた議論は緒についたばかりであり、景観形成に資する地域資源や課題が捉えきれていないのが現状である。

そこで本稿では、岐阜県恵那市大井町地区を対象とし(図-1)、景観形成に資する地域資源の抽出と現状の課題について考察する。

2. 研究方法

本稿では、恵那市役所提供の当地区に関連する史資料^{[1][2]}と市発行の観光ガイド^{[3][4]}の記載事項に着目し、地区内の空間構成要素や観光としての見所といった地域資源として捉えられる記述を分析することで、現存する地域資源の抽出とそれらの分布状況および課題点等を考察する(表-1)。

3. 結果および考察

分析資料に記載された当地区内の地域資源は、全 45 件抽出することができた。表-2は、それらの特徴を示し、それぞれの位置を布置したものが図-2であり、表-2の要素の分類を示したものが表-3である。以降、これらの特徴を述べていく。

(1)現状の地域資源の特徴と分布状況—表-2,3をみると、当地区内の地域資源として多いものは寺社や史跡および塚等であり、これに対して自然的物事はほとんど挙げられていないことがわかる。このことから、当地区内の現状を特徴づけるものとして、文化・歴史的施設が中心である一方、自然系の景観要素の抽出が課題といえよう。

次に図-2より地域資源の分布状況をみると、集中するエリアは中山道沿いであり、中山道よりも北部にあたるエリアではほとんど分布が見られず、中山道の町並みに関心が集中している様子が伺える。

(2)眺望点の特徴—続いて図-2において、景観計画で重要となる眺望点に着目すると、当地区内には歌川広重の傑作といわれる作品「木曾海道六拾九次・大井」が描かれた視点場(地点番号7,図-3)や、「日本風景論」を著した志賀重昂が川下りの際に命名した「恵那峡」(地点番号19)が挙げられている。しかしながら、これら2点はどちらも中山道の町並みとは逆方向の眺望点であり、街道の町並みを視対象とした眺望点は存在しない。このことをふまえると、現状において関心の高さが伺える中山道の町並みを視対象とした眺望点の発掘が期待されよう。



図-1 対象地域の位置

表-1 調査概要

項目	内容
文献調査	大井町の歴史・地域資源などについて 文献[1],[2] 観光マップから地域資源の分布状況を把握 文献[3],[4]
現地調査	中山道大井宿の現状把握 【2012(平成24)年6月30日】 文献調査より把握した大井町全域の地域資源調査【2012(平成24)年9月23日】

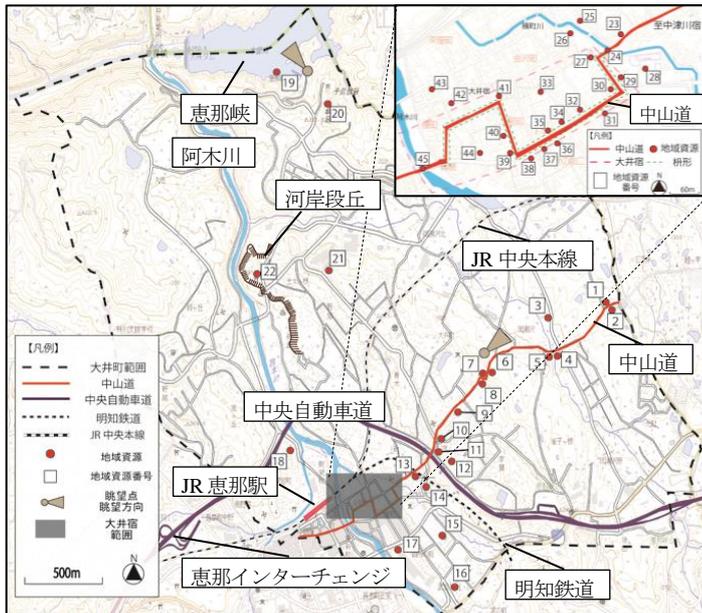
キーワード 地域別景観計画 中山道 大井宿 地域資源

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1-737 日本大学理工学部交通システム工学科岡田研究室 TEL047-469-5427

表一 地域資源一覧

地点番号	地点名	特徴	出典番号
1	馬頭観音(五妙坂)	舟型光背を背にした像。	3
2	中山道の碑	—	3
3	富士浅間神社	「塩の御前」と呼ばれる人が多い。	3, 4
4	常夜灯	—	3
5	岡瀬沢観音堂	40〜50年毎に再建される。	2, 3
6	馬塚	—	2, 3
7	中山道基平坂公園	平成4年3月に完成。歌川広重の浮世絵版画であり「木曾街道六拾九次之内大井」のモデルとなった地。	2, 3
8	根津神社	源頼朝の家臣根津基平をまつる神社。高さ2.24mの宝篋印塔があり、基平の墓標といわれている。	2, 3
9	関戸一里塚跡	明治〜大正にかけて壊され跡地になる。当時は子供たちの遊び場になっていた。	1, 2, 3
10	長石塔	四基と観音堂一基と続きほかに五輪塔二基がある。	2, 3
11	旅人の墓	北は秋田、南は鹿児島にわたる人々がかむ。主に男性で、女性4人のみ。	3
12	蓮華寺古墳群	—	3
13	名号塔	—	3
14	長国寺	大宝2年(703)、行基が肇創。現在のものは元禄中に建立。	1, 2, 3, 4
15	大井城跡	—	4
16	大井武並神社	承久2年(1220)創建。戦国時代、戦火により焼失。永禄7年(1564)、再建※現在の本殿。	1, 4
17	御所の前五輪塔部	—	4
18	東禅寺	恵那地区唯一の黄檗宗の寺・旧境内地は現在恵那東中学校が建てられ、通学路以前東禅寺への参道であった。	1
19	恵那峡	「恵那渓」や「恵那渓谷」と呼ばれていた。大正9年5月21日、「日本風景論」の著者である志賀重昂が川下りした際、「恵那峡」と命名。山並みや木曾川などの自然を眺望できる良好な視点場。	1, 2, 3, 4
20	倉岩	雨水の浸食や風化により柔らかな部分がくぼれて現在の姿となる。	4
21	シダレザクラ	—	4
22	金毘羅神社	獅子舞	4
23	高礼場	幕府の法度・控書の掲示場。一般的には、3〜4枚ほどだが大井宿は10枚掲示。	1, 2, 3
24	上横橋	大井宿の入り口となる。	3
25	毘沙門天(塔)	大井宿の北西の鬼門にあたる。城の押さえとして祀られたもの。	2, 3
26	三十番神	石造で寛文2年(1663)11月13日の建立。問屋を務めた井口家の氏神様。	2, 3
27	延寿院機業師	通称「機業師」。行基作と言われる業師如来がある。病氣、長命炎病に霊験がある。	1, 2, 3
28	内城稲荷神社	—	3
29	本陣跡(昭和22年焼失)	大名、公家、幕府の役人など身分の高い人たちが宿泊する場所。	1, 2, 3, 4
30	上問屋跡	公用の荷物を輸送する場。一定数の人馬を常備し隣村まで継送る。	1, 2, 3
31	中山道ひし形資料館	—	3, 4
32	茶屋みたけ屋跡	文久元年(1861)、ここで売った餅が大そう美味で旅人の間で有名となる。この家の主人の名前をとり、「餅屋勤兵衛」と呼ぶようになる。	1, 3
33	郷藏と祭礼場	凶作に備えて穀類を保存した倉庫。	3
34	宿役人の家	—	3
35	明治天皇行在所	—	3
36	下問屋跡	公用の荷物を輸送する場。一定数の人馬を常備し隣村まで継送る。	1, 2, 3
37	橋本屋跡	かなりの大規模の旅籠屋であった。特別な客室を持つ旅籠屋。	1, 3
38	旅籠新田中屋	—	3
39	旅籠屋角屋	座敷に接した奥に小庭園を設けることが多い。濡縁を渡って、奥に便所を設ける。	1, 3
40	古屋家	—	3
41	市神社	阿木川の水で数回の被害にあう。明治2年、現在地に移動。	1, 2, 3
42	白木改番所跡	木製品は中山道を利用して運搬しており、白木製品を取り締まった。	3
42	旅籠屋角屋	座敷に接した奥に小庭園を設けることが多い。濡縁を渡って、奥に便所を設ける。	1, 3
43	恵那峡八十八か所	昭和7年、春より像の造立が始まり、20余礼所で中止	2, 3
44	長屋門	表門に比較してかなり大形で、長屋に挟まれているため長屋門といった。	1, 3
45	大井橋	大井橋はもと阿木川の中ほどに切石を組んで中島を築き、これを中継点として2つの橋を架けて渡っていた。度重なる氾濫で、現在の位置に移る。	1, 2, 3

[注] 出典 1: 恵那市史通史編第2巻、2: 恵那の中山道かたりべの水箱、3: 恵那街道歩記、4: 恵那市文化財ガイドマップ、—: 説明文なし



図一 地域資源分布状況(地域資源番号は、表一2の地点番号に順ずる)

表一 地域資源分類(具体的事物の数字は表一2の地点番号に順ずる)

分類項目	件数	具体的事物
寺社	12	1.馬頭観音(五妙坂) 3.富士浅間神社 5.岡瀬沢観音堂 8.根津神社 13.長国寺 16.大井武並神社 18.東禅寺 22.金毘羅神社 27.延寿院機業師 28.内城稲荷神社 41.市神社 43.恵那峡八十八か所
史跡	10	2.中山道の碑 9.関戸一里塚跡 15.大井城跡 23.高礼場 29.本陣跡 30.上問屋跡 32.茶屋みたけ屋跡 36.下問屋跡 37.橋本屋跡 42.白木改番所跡
塚・墓・塔	9	4.常夜灯 6.馬塚 10.長石塔 11.旅人の墓 12.蓮華寺古墳群 13.名号塔 17.御所の前五輪塔部 25.毘沙門天(塔) 26.三十番神
建造物	8	31.中山道ひし形資料館 33.郷藏と祭礼場 34.宿役人の家 35.明治天皇行在所 38.旅籠新田中屋 39.旅籠屋角屋 40.古屋家 44.長屋門
橋	2	24.上横橋 45.大井橋
眺望点	2	7.中山道基平坂公園 19.恵那峡
その他	2	20.倉岩 21.土タケ根のシダレザクラ



図一 3 広重の絵図と現在の場所^[3]

(3) 北部エリアの展開—現状では意識が向けられていない北部エリアについて、図一2をみると、阿木川や、その河岸段丘のほか、等高線の分布から豊かな地形変化(高低差)と樹林地の存在などが認識できる。これより、北部エリアでは、現状では注視されていない自然系の地域資源やその眺望点の抽出が期待できよう。特に、北部エリアは西方面に恵那インターチェンジ、北端に一大観光拠点である恵那峡が存在することをふまえると、これら2点を結ぶ主要動線上に地域資源や眺望点を見出していく取組みが望まれる。これにより、JR 恵那駅から徒歩圏内(500m〜1km 程度)で大井宿の風情が楽しめる「宿場巡りルート」に加え、その周辺部において自動車利用を通じて当地の自然的風景を楽しむ「恵那峡周遊ルート」が構築できよう。この点につき市へのヒアリングによれば、この北部エリアは白地地域への住宅進出が顕著であるほか、リニア中央新幹線の軌道整備が決定されていることを把握した。このことから、現状では関心が希薄な北部全体の景観的価値の明確化と、その保全策の検討が急務といえよう。

以上の考察により、JR 恵那駅と宿場町をつなぐ徒歩観光ルートを有する当地区において、今後は、北部エリアの恵那峡を核とする自動車周遊ルートを整備することにより、徒歩と自動車利用の各々のニーズを満たす二重観光ルートが構築できる可能性を示した。

謝辞

本研究はJSPS 科研費21340043(代表:早稲田大学・佐々木葉)の助成を受けたものです。

参考文献

[1] 恵那市:恵那市史通史編第2巻, 1989.3
 [2] 恵那市教育委員会:恵那の中山道かたりべの水箱, 2000.3
 [3] 恵那市教育委員会:恵那街道歩記, 2007.3
 [4] 恵那市文化財ガイドマップ